CAMK
熊本市現代美術館 アート・キッスレター ｜無料｜FREE

# ART KISS LETTER

vol.73
2015初秋

チームラボ「お絵描き水族館」

巻頭言

## ポップ・アートの輝き

ポップ・アートは、1950年代のロンドンで起こり、そこではイギリスの作家たちにより、それまでアートとして取り上げられることの稀有であった漫画や映画スターやコカ・コーラ等の時代のアイコンが、すでに作品に取り込まれています。そして今から半世紀前の1960年代にアメリカン・ポップ・アートはニューヨークで最盛期を迎えます。アンディ・ウォーホルやロイ・リキテンスタイン等が、大衆文化を基盤とした鮮烈なアートを次々に提示し、その強力な影響力は、瞬く間に国際的な広がりを見せたのです。

このロンドンからニューヨークへの運動の流れは興味深く、たとえばプレスリーをテーマにしたイギリス人画家ピーター・ブレイクの作風は、ポップで軽やかではありますが、内省的でイギリス的であります。一方、ウォーホルのプレスリーは、画面は大型化し、イメージは微妙な変化を加えながら繰り返され、ダイナミックな展開を見せます。もうひとつの彼の代表作「マリリン・モンロー」シリーズは、1962年彼女の死の年に最初に発表され、その後、晩年にいたるまで無数の作品が生み出されています。とりわけロンドンのテイト・ギャラリー所蔵の組作品の大作《マリリン・ディプティック》は、英ガーディアン紙で20世紀美術における最重要作品の3番目に選ばれています。因みに1位はマルセル・デュッシャンの《泉》、2位がピカソの《アルジェの娘たち》、4位もピカソの《ゲルニカ》でした。

ウォーホルのマリリン作品の中でも最も美しいものの一つに、1967年作の絢爛とした10点セットがあります。このセットが日本に初めて空輸されてきた時、私はその木箱の開梱に立ち会う機会を得ましたが、目の前のまだ額やガラスがはめられていない作品10枚は、正に鮮烈に輝いていました。それは1960年代という、美の基準やアートの概念、そして文化そのものが大きく変わる時代が生み出した、「黄金の輝き」でありました。

熊本市現代美術館館長　桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

ポップ・アート 1960's→2000's From Misumi Collection
2015年7月25日［土］ — 9月27日［日］

http://www.camk.or.jp

CAMK（キャンク）とは熊本市現代美術館の愛称です。

## 詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会　第138回

### テーマ「ヒーロー」

2015.5.28

飛び入り参加の2名を含む、12名の方が「ヒーロー（ヒロイン）」をテーマに発表されました。「2015年度のテーマの中で一番難しい！」と参加者の皆さんは創作の苦労を口にされていましたが、その難しさ故に詩を生み出すアプローチの方法が様々で、互いの発表を新鮮な気持ちで聴かれていたようでした。

「地球を救うため」に働くヒーローと自分の仕事を重ね合わせ、「正義は見えない所でやる」とたとえ目立たない仕事でも誇りを持たれている方や、特別な力がなくて弱くて傷ついても「あなたは私のヒーロー」というロマンチックな方も。また、熊本県立美術館で「宮崎静夫作品展」を鑑賞した方は、英雄とよばれて戦場にむかった人たちへの追悼を込めた朗読をされていました。（H・Ts）【参加人数12人】

詩の朗読会　第139回

### テーマ「宝物」

2015.6.25

6月のテーマは「宝物」。短歌2作品を含む13作品を、10名の方が発表されました。

宝物とは何だろう？と考えることから始まる作品や、大切な記憶を宝物として詠む作品など、様々な視点から詠まれていました。「宝物＝子ども、キラキラが詰まった思い出、箱」というイメージがパッと浮かんできますが、日常を切り取った宝物〝モップ〟にスポットを当てて作られた詩が特に印象に残りました。日々の生活で必ず使うものほど、宝物からは遠ざかりそうですが、この詩からは作者の深い愛情を感じることが出来ました。また、韻を踏む短歌のリズムも心地よく耳に響き、言葉の美しさを感じられる会でした。（N・H）【参加人数10人】

詩の朗読会　第140回

### テーマ「ポップ・アート」

2015.7.23

今回は飛び入り3名を含む計13名の方が参加。「ポップ・アート」という今回のテーマには多くの方が頭を悩ませたようでした。一方で「自分にとってポップとは何だろう？」と、普段当たり前に思っている身の回りのものを見直す機会にもなったようです。マリリン・モンローやハンバーガー、コーラといったポップ・アートの作品に頻出する対象を、意外にも（？）情緒豊かに詠む方がおられて感心させられ、広告上の文句をコラージュ的にリズムよく並べた詩を聴いては、「広告と詩は実は近い…？」といった考えもよぎりました。詩のテーマとしては一風変わった「ポップ・アート」というお題でしたが、一人一人の切り口の違いが非常におもしろい会となりました。（G・S）【参加人数13人】

## CAMKEESの活動

美術館ボランティアCAMKEES（キャンキース）による活動紹介

CAMK読みがたり第69回

### テーマ「元気なこども」

2015.5.9

今回ご紹介したのは、絵本『ちびすけどっこい』、『くつくつあるけ』、手遊び「おべんとうばこのうた」など。手遊び「たんたんたんぽぽ」では、「たん、たん、タン、ポポ」とみんなでほっぺを両手でとんとんとする仕草がかわいく、小さなお友達もお母さんと一緒に上手にできました。今回のプログラムで特に盛り上がったのは、「春風ふっ花びらふっ」の遊びでした。ボランティアさんお手製の花びらに見立てた折り紙が全員に配られ、「はるかぜ ふー。はるかぜ ふー。桜の花びら ひ～らひら」と息を吹いて魔法をかけて高いところから手放すと、それぞれの花びらがくるくる回転しながら落ちていく姿にみんな大喜びしていました。（K・O）【参加人数26人】

CAMK読みがたり第70回

### テーマ「ヒーロー」

2015.6.20

今回のテーマは、特撮展に関連して「ヒーロー」。手遊びの「一丁目のウルトラマン」や「アンパンマン」など、皆が知っているお馴染みのヒーローたちがたくさん登場しました♪また、絵本『おとうさんはウルトラマン』や『おとうさんあそぼう』など、父の日に関連した、〝お父さん〟が主役の物語もご紹介しました。お馴染みの登場人物が出てくるといつも以上に夢中になって聴き入る子ども達の姿と、一緒に聴いている大人も思わず笑顔になる姿に、ヒーローと言うのは色あせない特別な存在なのだと感じられました。もしかしたら、誰もが誰かのヒーローになっているのかもしれないと思える、素敵な会となりました。（N・H）【参加人数37人】

CAMK読みがたり第71回

### テーマ「おばけだぞ～」

2015.7.18

7月の読みがたりのテーマは、「おばけだぞ～」。絵本『ねないこだれだ』や紙しばい『ばけこちゃんのかさ』、手あそび「とんとんトンネルくぐったら」などをご紹介しました。手袋人形「おばけのあかちゃん」では、立派なおばけになるためにおばけの赤ちゃんたちがお稽古をします。おばけ体操や「うらめしや～」と言葉のお勉強をする場面は、「こわ～い」よりも可愛らしさが感じられました。そして、おばけの六人兄弟が登場するパネルシアター「おばけちゃん」は、フルーツを食べると白いおばけたちがイチゴ色やバナナ色に変身。子どもたちから「あれ～？」と不思議そうな声が聞こえてきました。（Y・M）【参加人数63人】

## ミュージック・ウェーブ
展覧会や季節にあわせたコンサートを開催しています

### CAMKピアノコンサート vol.17

2015.4.26

17回目の開催となる、当館のピアノボランティアさんによるCAMKピアノコンサート。回を重ねるごとにファンの方も増え、毎回待ち遠しいとの声もいただいています。今回も80名を超える方にお楽しみいただきました。現在50名あまり在籍しているピアノボランティアさんですが、今回はその中の7名にご演奏いただきました。連弾あり、人気ゲームの挿入歌あり、少しテンポの速いクラシック曲ありと、皆さん思い思いの曲を発表されました。次回のピアノコンサートは冬の開催を予定しています。（H・Ts）【参加人数85人】

### 関家悠也 法竹コンサート

2015.7.11

法竹奏者の関家悠也さんによる演奏をお届けしました。外見が尺八に似た「法竹（ほっちく）」は、禅器、法器と呼ばれ、虚無僧がお経や禅の代わりに吹いてきたものです。竹をくり抜き、塗装を施さずに作られており、素朴な音を奏でます。4本の法竹を用いた演奏では、重厚な低音から軽やかな高い音色まで様々な竹の音色が響きました。中国から伝わり600年前に京都で生まれた曲や、一休上人によって作られた曲など、いにしえから伝えられてきた音楽が現代の奏者の息遣いによって蘇る神秘的な時間となりました。目を閉じ、じっと音に聴き入るオーディエンスの方々の姿も印象的でした！（A・A）【参加人数40人】

STREET ART-PLEX KUMAMOTO協働事業

### JAZZ OPEN 2015

2015.7.25

熊本の夏の恒例「JAZZ OPEN 2015」が開催されました。今年の現代美術館会場は、「豊田隆博TRIO」と九州で活躍する女性ヴォーカリスト3名がジョイントした「豊田隆博TRIO with Vocalists」が出演。3ステージ構成で、豊田隆博TRIOによるジャズのスタンダードナンバーをお楽しみいただいた後、女性ヴォーカリストたちが登場しました。柔らかな歌声で「Bye Bye Blackbird」や「Summertime」などが伸びやかに歌われ、それぞれの共演で曲の雰囲気も異なりとても魅力的でした。心地よいJAZZの演奏に夏の夜が涼しげに感じられるようなコンサートとなりました。（Y・M）【参加人数150人】

## 街なか子育てひろば
子どもたちのためのイベントを開催しています

### リフレッシュ親子ヨガ

2015.5.15

5月のワークショップは、爽やかな季節にピッタリの「リフレッシュ親子ヨガ」。ヨガインストラクターの方を講師にお迎えし、親子で触れ合う楽しいヨガを体験していただきました♪

まずは、お母さんの足の上にのって足踏みする親子体操から始まりました。まだヨチヨチ歩きのお友達は、いつもと違う歩く感触に目を丸くしている様子も。手を繋ぎながらお母さんの周りを歩いたりする体操から、おんぶや抱っこをしながら背中や腕をのばしたりして、自然と親子ヨガのポーズになっていきました！ゆっくり進んでいく身体の動きに、子ども達はとてもリラックス。体がほぐれてくると、いよいよ〝木のポーズ〟や〝英雄のポーズ〟といった本格的なママヨガに。難しいポーズでも笑顔で頑張るママたちの姿は、とても輝いていました！

最後は先生の指導のもと、胸式呼吸と腹式呼吸で終了。ほんの少しの時間でしたが深呼吸をすると、皆さん身体も心も軽くなったようでした。触れ合うヨガを通して、また一段と親子愛が深まったのではないでしょうか。（N・H）【参加人数24人】

街なか子育てひろばイベント

### 親子でわくわく音楽あそび

2015.6.18

梅雨の憂鬱さも吹き飛ぶような「親子でわくわく音楽遊び」を開催しました。講師にはWAIWAIランドのお二人をお迎えし、明るく楽しい音楽に合わせて、歌や人形劇、親子遊びからパネルシアター、フラフープ遊び、最後には様々な種類の打楽器まで、豊富な内容でお楽しみいただきました。盛りだくさんの1時間はあっという間に過ぎ、幼稚園顔負けのワークショップを皆さん楽しんでいただけたようでした。この日は20組とたくさんのご参加をいただき、終始とても賑やかでした。（K・O）【参加人数44人】

街なか子育てひろばイベント

### 親子でふれあい英語あそび

2015.7.9

講師にはニュージーランド人と日本人のご夫婦（奥さんは熊本出身）と一歳になるお子さんをお招きし、日本語と英語を使った手遊び歌や親子遊び、絵本の読み聞かせなどを行いました。今回は、美術館で職業体験中の中学生も見学で参加。ワークショップに参加した赤ちゃんたちは寝そべったり、遊びまわったりとリラックスした様子でした。ご紹介したのは、「しあわせなら手をたたこう」の手遊び歌や、五味太郎さんの大型絵本『まどからおくりもの』などなど。子どもたちは、歌に合わせてお母さんと一緒に手を叩いたり、「HA-HA！」と笑ったりと、お母さんとの触れ合いにニコニコ笑顔。絵本の読み聞かせでは、絵本の一番前に集まって、日本語交じりの英語で読む講師の先生のお話をじっと聴いていました。子どもの英語教育にとって大事なことは、正しい文法や発音の前に、普段から気軽に英語を使うことなど、なるほど…と思うアドバイスに、これからお子さんを育てていくお母さんたちは耳をそばだてて聴いていました。（K・O）【参加人数31人】

特撮博物館の入場者数は、当館歴代2位を記録しました!

「館長庵野秀明 特撮博物館ミニチュアで見る昭和平成の技」展

特撮博物館　映画上映会

## 「大決戦!超ウルトラ8兄弟」

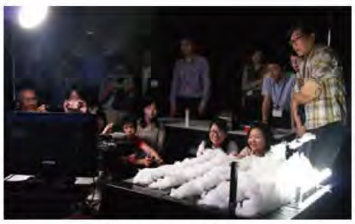
2015.5.5

子どもの日の特別イベントとして映画「大決戦!超ウルトラ8兄弟」を上映しました。本作は、ウルトラマン、セブン、ジャック、エース、ティガ、ダイナ、ガイア、メビウスが大集合する人気映画ですが、特撮展で展示された「ジェットビートル」「タックアロー」なども登場します。また、この映画の美術デザイナーの稲付正人さんは、会場内限定上映の短編映画「巨神兵東京に現わる」の美術を担当されています。さらに、会場内で撮影することができる特撮美術スタジオミニチュアステージを手がけたマーブリングファインアーツさんもこの映画のミニチュア制作を担当しています。それから「雲の神様」島倉二千六さんも!出品作品や展覧会に関わったスタッフ達の技を、映画と展覧会の両方で体験していただく機会としての上映会でした。(H・T)　【参加人数合計142人】

特撮博物館　ワークショップ

## 「三池さんと特撮雲をつくってみよう!」

2015.5.16



特撮研究所の三池敏夫さん(熊本出身)を講師に、ワークショップ「三池さんと特撮雲をつくってみよう!」を開催しました。参加者は中学生から70代までの幅広い世代からなる17名です。最初に、特撮雲のひとつ、水槽雲のデモンストレーションを体験。背景写真は天地逆さにして水槽の外側にセットし、水をいれた水槽に2種の灰色の絵具を流し込むと、なんと噴煙が立つ様子が表現されました!ほんの一瞬の出来事でしたが、驚きと感動の声があがりました。

いよいよのワークショップ本番では、3グループに分かれて、雲海(2セット)とキノコ雲を作成。キノコ雲は、塩ビの半球にLEDライトを仕込んで、熱がこもらないように工夫。両面テープを外側にまんべんなくはりつけて、手のひらサイズに成型した綿の雲をはりつけていきます。雲海は、5列の雲を、奥から手前まで高さのグラデーションをつけて表現。雲の表現は三池さんがわざわざ飛行機からの雲の写真を「見本にしてね」とご用意くださり、また、「雲らしく」みえる造形表現を細やかに指導してくださいました。表情をつける道具はなんとヘアムース(ハード)です。

雲の準備ができたらいよいよ撮影。キノコ雲は、別にLEDライトを3種ほど急きょ三池さんがご用意くださり、照明に使用。「特撮は照明がとても重要なんです」とのお言葉と、全く無駄のない動きで速やかにセット。カメラレンズを通してみたところ、驚きのリアリティが出現しました。

雲海は、手前の2列をそれぞれスピードを変えて動かしながらの撮影。2列の雲の列が動くことで、カメラが前進しているかのような動きが映し出されました。ここでも驚きの大歓声が!雲海には、追加でこれまた三池さんがご持参してくださいましたミニチュアの飛行機をピアノ線でつるして、部分的に照明を細やかに当てながら撮影。雲の上を飛行機が飛ぶ特撮シーンが出現しました。三池さんが時折発言されている「特撮はカメラレンズを通して完成するんです」の言葉を深く深く実体験できるワークショップでした。ワークショップ終了後には、三池さん提供の画像から、様々な特撮の工夫を学びました。

大人向け(中学生以上)のワークショップは、実は当館での開催は久しぶり。今回のワークショップを実施して、大人の方にもこんなに喜んでいただけるんだ…!と気づく機会をいただきました。今後の取り組みに反映したいと思います。(H・T)　【参加人数17人】

特撮博物館　プレミアムナイトツアー①

## 「特撮に出会ってしまった!」

2015.5.22

このイベントは、担当学芸員による展覧会解説付きのナイトツアーで、プレミアムな部分としては、展覧会を鑑賞する前に、30分間、展覧会を深く知るための事前レクチャーを行いました。当館は通常20時まで開館しているところを、ナイトツアーでは21時まで開館。土日は時間を取れない…、平日夜なら来られるんだけど…、という方に向けた、当館としてもひさしぶりの平日夜のナイトツアーとして開催しました。

TM&©TOHO CO., LTD.

第一回は、「特撮に出会ってしまった!」をレクチャータイトルとして担当学芸員の冨澤がお話しました。特撮展に出会ってから開催までの経緯、展覧会が出来上がるまでの写真のスライドショー、三池敏夫さんのワークショップ「三池さんと特撮雲をつくってみよう!」のイベント風景の紹介、庵野監督・樋口監督の開会式でのごあいさつを紹介しながら、担当者が見聞きした特撮および特撮展についてお話しました。

会場内ギャラリーツアーは、作品展示時のエピソードなど様々な小話を紹介しながら、参加者だけの少人数でゆっくりと鑑賞。参加者24名の大人向けツアーとして、さわやかな5月の夜の時間を楽しくお過ごしいただけたようでした。

アンケートにも、鑑賞の満足度が上がったとのお声とともに、このような平日のナイトツアーの継続を希望される声が多々みえました。今後の企画の参考にさせていただきたいと思います。(H・T)　【参加人数24人】

特撮博物館　プレミアムナイトツアー②

## 「特撮—世界制作の方法」

2015.6.5

特撮博物館展・第二回プレミアムナイトツアーでは副担当学芸員の佐々木が案内人を務めさせていただきました。前半のレクチャーは「特撮—世界制作の方法」と題して、特撮映像が完成するまでの制作過程と、そこに関わる様々な職人たちの技をご紹介しました。後半は会場を参加者のみの貸切状態にしてのギャラリーツアー。展示品に見られる職人の仕事へのこだわりや、それらが撮影にどのように用いられたのかなど、鑑賞のポイントを解説させていただきました。また、特典として非売品の展覧会ポスターをおみやげにご用意しましたが、こちらも皆さんお喜びいただけたようです。(G・S)　【参加人数32人】

特撮博物館　講演会

## 「尾上さんと新しい特撮を発見しよう!」

2015.5.31

特撮博物館関連イベントとして、特撮監督の尾上克郎さんを講師にお招きし、講演会「尾上さんと新しい特撮を発見しよう!」を開催しました。講演はまず「特撮とは?」を紐解くところから始

ポップ・アート展は
9／27(日)まで!!



まりました。ジョージ・イーストマンによるフィルムの発明から、映画の草創期の歴史として、エジソンやリュミエール兄弟、ジョルジュ・メリエスの名前を挙げつつ、「映画の歴史は特撮の歴史です」という導入。日本映画における特撮の歴史をたどるシーンでは、円谷英二監督の成し遂げた様々な発明や研究を紹介しつつ、「ゴジラ」を起爆剤に怪獣ブームが到来し、一般普及が進んだテレビでは「ウルトラマン」が大ヒット、という歴史の流れを紹介。その後、映画「スターウォーズ」（1977）そして、1979年を境にアメリカ特撮映画が大量に輸入される時代が到来、CGの発展の時代がやってきたという、日本の特撮の歴史とそれを取り巻く環境について詳しくご説明いただきました。

続いて、特撮展会場で上映されている「巨神兵東京に現わる」の出来上がるまでのドキュメントをご紹介いただきました。監督補という中枢のお立場の体験を、ユーモアたっぷりのコメントを交えつつお話くださいました。撮影方法についても少しお話いただき、「模型にピントが全部合うと本物に見えます。露出の時間を長くする必要がある場合があるのですが、これを、カメラを動かしながら撮影するときにモーション・コントロールを使います」などと、技術的な話をまじえながら、映画制作に関わったたくさんのプロフェッショナルたちの人間的魅力も丁寧にご紹介されながらお話を進められました。

今回の講演会、事前予約された方には、質問票をお配りしましたが、30名ほどの方が提出、なんとその全てに尾上さんはお答えくださいました。若い世代からの「どうしたら特撮に関する仕事につけますか?」という質問には、励ましとともに具体的な行動が大事ですというお言葉もありました。また、質問には新作ゴジラへの期待の声も多くみられました。（H・T）

【参加人数80人(予約者&当日立ち見)】

特撮博物館

## ナイトツアー

2015.6.17&20

美術館近隣の商店街向けのナイトツアーを開催しました。美術館が立地する周辺の商店街で働く皆さまに、当館の美術館活動を知っていただき、関心をもっていただくことを目的に開催していますが、今回はなんと両日あわせて205名の参加でした！開催前からいただいたお声掛けや、アンケートに残されたメッセージからも、毎回のこの機会を楽しみにしていただいているのを感じました。ナイトツアーを通じての鑑賞体験が、商店街に集うお客様との会話の一助となり、まちなかの活性化のお役にたてるとしたら、当館としてもこんなにうれしいことはございません。

平日は特撮世代がじっくり鑑賞、週末はにぎやかなご家族連れの参加が多くみられました。（H・T）【参加人数合計205人】

特撮博物館

## 入場者7万人達成!!

2015.4.11-6.28

大好評をいただいた特撮博物館展、閉幕までになんと76000人を超える方々にご来場いただきました。会期中、来場者1万人ごとに記念のセレモニーを行い、○万人目に当たられたお客様にカタログ等の記念品をお贈りさせていただきました。今回は、特撮世代はもちろん、お子様からシルバーの方まで幅広い年代の皆さんにご楽しんでいただけたようです。また、県外からも非常に多くの方にお越しいただきました。特撮展にご来場くださり、また応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。（G・S）

特撮博物館

## さよならコンサート

2015.6.28

特撮の素晴らしさを未来へと継承したいという庵野秀明映画監督・プロデューサーのひたむきな想いから、2012年東京からはじまった特撮博物館展、2015年春当館をもって終了となりましたが、大きな大きな流れを生み出し、2016年の新作ゴジラ映画発表へとつながりました。

この大きな文化の流れを市民の皆さまとともに体験したということで、特撮博物館展さよならへのはなむけと、特撮文化発展へのエールを熊本から発信したいと思い、様々ご相談したところ、陸上自衛隊第8師団のご協力をいただき、第8音楽隊による演奏会が実現しました。「演奏者は特撮世代がほとんどです!」、「自衛隊の特撮映画初出演は、なんと「ゴジラ」でした―!」など特撮愛のあるMCのもと、特撮映画音楽や、会場展示作品関連曲の力強く楽しい演奏が行われました。最終日ということで駆けつけてくれていた、樋口真嗣監督、三池敏夫美術監督も大絶賛の演奏会でした。200名の観客の皆さまと特撮博物館展の最終日、楽しいひと時を過ごしました。（H・T）

【参加人数200人】

「ポップ・アート 1960's→2000's From Misumi Collection」展

## ポップ・アート展　開幕

2015.7.25

株式会社ミスミグループ本社のコレクションを軸に、タグチコレクション、北九州市、福岡市、熊本県の各美術館の優れたポップ・アートのコレクション110点を集めた、「ポップ・アート 1960's→2000's From Misumi Collection」展が開幕しました。会場には、子ども向けのパネルやワークシート、ワークショップコーナーも設けられ、夏休みの親子連れを中心に初日から賑わいをみせていました。（A・S）

ポップ・アート展

## 広本伸幸講演会

2015.7.25

ポップ・アート展の開催を記念して、ミスミ・コレクションキュレーターの広本伸幸さんの講演会「40億円のマンガの絵 ポップ・アートの経済効果」が行われました。ロイ・リキテンスタインやアンディ・ウォーホル展を手がけた経歴から、それぞれの作品の特徴、なかなか表だって語られない、アートとお金の話まで、豊かな経験に裏打ちされたさまざまなお話を聞くことができました。（A・S）

【参加人数40人】

## GⅢ

ギャラリーⅢ（GⅢ）は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ-vol.103

### 吉山安彦展　これから

2015.5.13-7.12

菊池恵楓園絵画クラブ金陽会で60年にわたり描き続けている吉山安彦さんの個展を開催しました。金陽会の作品は過去に「光の絵画」としてご紹介してきましたが、現在では絵を描くのが吉山さんお一人となっています。本展は、金陽会の仲間たちの作品を守りながら絵を描き続ける吉山さんご本人をご紹介したいという思いから企画しました。吉山さんの130点は優に超える作品の中から厳選された24点を展示。9000人を超える方々にご来場いただき、恵楓園の今をも感じてもらえる展覧会になったようです。（E・Z）

GⅢ-vol.104

### チームラボ「お絵かき水族館」

2015.7.18 -8.2

「海フェスタくまもと」関連事業として、チームラボの「お絵かき水族館」を展示しました。「お絵かき水族館」は「学ぶ！未来の遊園地」シリーズのメディアアート作品で、タツノオトシゴ、フグ、カメ、カジキなど10種類のシートから1枚を選び、クレヨンで自由に塗り絵をしたシートをスキャンすると、水族館の巨大水槽を思わせる巨大スクリーンに自分の描いた魚が登場、個性豊かな動きで泳ぎ始めます。スクリーンをなでると、手元に泳いでいたお魚が一斉に逃げてしまうといったインタラクティブ（相互作用）なシステムも持つこの作品は、かつてない体験型のメディアアート作品として来場者の心をぐっとつかんだようで、会場は連日ご家族連れの大賑わいでした。（H・T）

### 海フェスタくまもと映画上映会（上映は全て14：00から）

海フェスタくまもと関連イベントとして、海にまつわる映画を3日間連続してホームギャラリーで上映しました。

7月18日(土)「白い船」　2002年　日本映画　108分　＊日本語字幕付き
7月19日(日)「ハワイの夜」　1953年　日本映画　84分　＊日本語字幕付き　協力：字幕サークルおむすび
7月20日(月)「ピアノレッスン」　1993年　オーストラリア映画　121分
【参加人数：18日80名、19日90名、20日105名】

井手宣通記念ギャラリー

### 初夏のテーマ展示「世界を空想する」

2015.5.13-7.12

収蔵作品より、「世界を空想する」をテーマに小企画展示を行いました。このテーマは、会期の重なった特撮博物館展にあわせて設定したものです。井手宣通、東弘治、元田久治、吉野辰海、比佐水音、小野田維、横山博之の作品11点を展示しました。出品作品すべてに共通するのは、実在する世界を足場としつつ、作家の空想や感動・衝動をきっかけに創造された世界観に基づいて制作されていること。

作品ごとの解説と出品作品リストを会場で配布しました。（H・T）

## ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーからおすすめの一冊をご紹介いたします。

VOL.26

### 『迷宮の美術　真贋のゆくえ』

著者：瀬木慎一
出版：芸術新聞社 1989年

ご自慢の美術品を専門家に鑑定してもらうテレビ番組が人気を博しています。お宝が高額評価される一方で、依頼品が「にせもの」と鑑定され、自信満々だった依頼者があぜんとなる瞬間も番組の売りとなっています。美術作品に触れた時に、自分が好きな作品かそうでないのか、また美術的価値があるかないかということ以上に、果たして作品が本物なのか？という事が脚光をあびることも。その番組中に登場した「にせもの」も、超一級の美術品さえも霞んでしまうほど、時には「人々を魅了している」とも言えるかもしれません。

そんな「にせもの」に焦点をあてたのが、美術評論家の瀬木慎一氏の『迷宮の美術　真贋のゆくえ』です。本書では、世界中の「にせもの」が巻き起こした事件を取り上げています。食うに困った弟子のため「にせもの」作りを黙認した松村景文のように、画家が生きている時から「にせもの」作りがおこなわれた例も淡々と書きつづられています。また、日本最大といわれる「春峯庵事件」では、架空の旧家「春峯庵」という名前だけが注目され、作品1点1点の真贋が検証されないまま入札会が行われ、その後警察が介入して詐欺事件にまで発展した事件を紹介。イギリスではトム・キーティングという男性が自ら贋作者であると名乗り出て、2000点以上を世に出したことを告白したにも関わらず、すでに相当数のものが「にせもの」と見破られていたという事例も。本の最後には「贋作事件年表」なるものも掲載されており、それによると紀元前4世紀から贋作の歴史は始まるようです。美術史の裏側で、いかに人が「にせもの」に翻弄されているのかがうかがえます。（H・Ts）

## 月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より　無料　定員：90名

### 上映リスト（4／26〜7／25）

4月27日「ルイーサ」2008年　アルゼンチン、スペイン映画　110分
5月4日「チャールズ・スワン三世の頭ン中」2012年　アメリカ映画　86分
5月11日「アニマル・キングダム」2010年　オーストラリア映画　113分
5月18日「はじまりの歌」2013年　日本映画　73分　＊日本語字幕付き
5月25日「セシルの歓び」1967年　フランス映画　88分
6月1日「ラスト・ミニッツ」2012年　アメリカ映画　86分
6月8日「ウェンディ&ルーシー」2008年　アメリカ映画　83分
6月15日「街の恋」1953年　イタリア映画　110分
6月22日「トータル・リコール」1990年　アメリカ映画　113分
6月29日「アウトロー」2012年　アイスランド映画　105分
7月6日「ドルフィンブルー」2007年　日本映画　105分　＊日本語字幕付き
7月13日「ひと月の夏」1987年　イギリス映画　92分
7月20日（海の日フェスタくまもとのためお休み）

命の花壇植え替え

## 命の花壇植え替え

2015.5.26

本年度1回目の命の花壇の植え替えを、熊本支援学校高等部農芸班の皆さんと一緒に行いました。今回の苗は、アフリカンマリーゴールド、フレンチマリーゴールド、ジニア（オールメキシコ）、ペチュニア、ダイヤンサス、アケウタム、コスモスです。夏に向けて綺麗なお花を咲かせてくれるのを楽しみにしています！（A・S）

今田淳子ワークショップ

## 「焼き物で丘の風景を作ろう」

2015.5.30

就労移行支援所「アストライ」通所者の方を対象に、焼き物のワークショップを実施しました。講師はアーティストの今田淳子さん。A4サイズ大の陶土をベースにして、丘の風景をイメージしたプレート作りを行いました。今田さんが準備してきてくれた、ミモザなどの植物や貝殻などをスタンピングしたり、思い思いの小物を作ったりして、色粘土で着色も行い、個性的な作品が完成しました。（A・S）【参加人数15人】

上通アートプロジェクト

## 「上通演劇まつり」

2015.7.3-5

上通のうわさ、草間彌生展コラボと続いてきた上通アートプロジェクト。今年は演劇に縁遠い人たちにも演劇の楽しさ、おもしろさを感じてもらおうと、「アーケード劇場」と題して白と黒のプロセニアム（簡易舞台）が上通に登場しました。熊本はもちろん、九州各地や東京からやってきた劇団のみなさんが様々なパフォーマンスで街ゆく人を楽しませ、現代美術館の「現美劇場」では短編演劇もしっかり楽しめちゃう大盤振る舞い。

7月3日には前夜祭として昭和28年に熊本を襲った水害をテーマにした「上通物語」のリーディングも行われ、連日満員御礼でした。「なんだかとっても上通」というテーマソングに合わせてのパレードは、ついつい一緒に口ずさみ歩きだしたくなるような盛り上がりで、楽しさいっぱいの3日間になりました。（E・Z）

【参加人数（現美劇場）：3日90人、4日270人、5日270人】

出演劇団：不思議少年（熊本）、with a clink（熊本）、有門正太郎プレゼンツ（北九州）、劇団ヒロシ軍（長崎）、劇団だるめしあん（東京）、劇団きらら（熊本）

Special Guest：古家優里（プロジェクト大山・marble）、ゲネス a.k.a PAPA（fromナニコレ？劇団）、LEE

空間デザイン：gaju

### 誤記訂正

前号のAKL72号の7ページ、「第16回 洛神 書作展」の記事、12行目の表記に誤りがありましたので、下記のように訂正させていただきます。

誤：森山淡草さんは「墨緑」を～

正：森山淡草さんは「墨縁」を～

読者の皆さま並びに関係者の皆さまにご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

## Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想（抜粋）を紹介します

「館長庵野秀明 特撮博物館
ミニチュアで見る昭和平成の技」展

- やはり、アナログな世界は永遠だと感じました。（市内50代）
- 「巨神兵東京に現わる」制作スタッフの子供のような笑顔が印象的でした。メイキングを見てから本編鑑賞するとさらにおもしろそう。犬のぬいぐるみに笑いました。（市外20代）
- 楽しかった～。職人の情熱を感じました。（市内40代）
- 特撮の歴史、制作過程が見られて面白かったです!!懐かしいもの、生まれる前の物から最新作まで…。一瞬の撮影に懸ける、職人技に胸が熱くなりました。（市外40代）
- メイキングがとてもよかった。情熱のたまもの。（市内50代）

## 編集後記

今回のポップ・アート展の中で一番高価な絵は、一枚なんと数十億円クラス…！はてさてそれはどの作品でしょうか？展覧会を観るときに何を観てよいのかわからない、という声をときどき聞きますが、そんなときには「この展覧会の中で一番値段の高い作品はどれだろう？」と考えながら観てみるのもおもしろいかもしれません。ちなみに小説家の原田マハさんは展覧会に行ったら「自分が一番欲しい作品を探す」とおっしゃっていました。「人に贈るとしたら？」、逆に「一番嫌な作品は？」などなど、何か自分なりにテーマを決めながら眺めてみると、作品の見え方も少し違ってくるかもしれません。

編集長　佐々木玄太郎

夏休み本番、美術館はたくさんの家族連れで賑わっています。連日の猛暑と来館者の多さに、美術館入口にある給水器のタンクは、早い時には5分に1本というスピードで空に。快適な美術館から一歩足を踏み出した途端、ジワリとふきだす汗…。夏休みにはしゃぐ子供たちの笑顔が眩しいです。自分では体調管理のできない作品たちにとっても、光や空調の管理された美術館のなかはオアシスなんですよ♪

担当　大田黒翔代


［執筆者一覧］＊原稿の文末にイニシャル表記

藏座江美（E・Z）［熊本市現代美術館主任学芸員］
冨澤治子（H・T）［熊本市現代美術館主任学芸員］
坂本顕子（A・S）［熊本市現代美術館主任学芸員］
芦田彩葵（A・A）［熊本市現代美術館主任学芸員］
佐々木玄太郎（G・S）［熊本市現代美術館学芸員］
丸吉ゆかり（Y・M）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
平原奈津美（N・H）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
大田黒翔代（K・O）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
塚本春菜（H・Ts）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］

ART KISS LETTER アート・キッスレター
vol.73初秋号（2015年9月）【無料】
発行人：桜井武
編　集：佐々木玄太郎　大田黒翔代
デザイン：石井克昌（MOTOSHIKI）
印　刷：シモダ印刷
発　行：熊本市現代美術館
http://www.camk.or.jp
〒860-0845
熊本市中央区上通町2-3
電　話　096-278-7500
ファックス　096-359-7892

【次号は秋号（11月発行予定）】

展覧会準備・プレイベント進行中！

## Stance or Distance? ―わたしと世界をつなぐ「距離」―展（スタンス オア ディスタンス）（会期：2015年10月10日㈯―12月6日㈰）

### 参加アーティスト来熊

目には見えないけれども、確実に存在する〝距離〟や、コミュニケーションや生活のなかで生じる〝距離感〟。私たちは、対象との距離を伸ばしたり縮めたりできるからこそ、近くにいる家族や恋人、友人、社会の出来事、あるいは遠い海の向こうの世界にも向き合ったり、想像を膨らませたりすることができるのではないでしょうか。10月に開催する「Stance or Distance?」展では、〝距離〟が生まれる背景をポジティブに捉え、私たちと世界をつなぐ多様な〝距離〟について考えます。

### 林智子さん 新作制作のための熊本リサーチ

2015.5.11-13 &7.29-8.1

林さんは、〝距離〟をテーマに、現代のテクノロジーや伝統的な手法を織り交ぜた作品を発表してきました。離れた場所にいる者同士が、相手を想い浮かべながら指輪をはめて身体の上をなぞると、その動きが光の痕跡となって他方の身体に浮かび上がる「Mutsugoto」は、実際に体験することができるインタラクティブな作品。本展でも出品されます。

林智子《Mutsugoto》2010-15年

熊本にルーツがある林さんは、大好きだった祖父の熊本での足跡を辿りました。熊本で育ち、阿蘇で人生の転機を掴んで、京都で学生時代を過ごした祖父は、物理探鉱の仕事で世界中を回りました。林さんも留学や滞在制作のため海外の各地で長い時間を過ごし、現在は京都を拠点にしていますが、本展のために熊本を訪れました。祖父が過ごした場所をリバースしているかのような移動は、まるで時間と距離を遡る旅のようにも思えます。

1回目の来熊では、南阿蘇の「京都大学火山研究センター」を訪問。祖父は施設の設立に関わり、また阿蘇の写真を多数撮影していました。その写真を林さんが大切に保管していたことが新作構想のきっかけとなりました。祖父の仕事部屋や当時の測量機械を見学し、阿蘇山の岩石や硫黄などもサンプルとして採取。阿蘇周辺を周った後は、祖父の生家を訪れ、その痕跡をじっくり確かめます。

2回目は、「京都大学火山研究センター」のご協力のもと、20世紀初頭に開発され、林さんの祖父も使われていた貴重なウィーヘルト地震計測機を動かし記録を付けていきました。さらに、祖父の日記に登場する鉱石ラジオについて調べると、今では入手困難となった部品を熊本のラジオ屋さん「ハムズオフィス」が扱っていることが分かり、部品や技術についてお話しを伺いました。

その後、美術館で展示スペースを視察。2回のリサーチを経て浮かび上がる、林さんの記憶の中の祖父と、記録の中での祖父の姿。さらに、大地と空気の振動とエネルギーが題材となって、林さんと祖父を熊本で結ぶドラマティックな展開へ。作品の完成をどうぞ楽しみにお待ち下さい！（A・A）

### 加藤泉さん 新作制作、展示のための会場視察

2015.7.31

出品作家の加藤泉さんが、絵画と彫刻の展示のために展覧会場の視察に来られました！加藤さんは、人と植物とが共生した生命体のような形象をモチーフに絵画や彫刻を制作されています。展覧会では、高さ3メートルを超える迫力ある彫刻群や新作の絵画などを出品される予定です。人と人とのつながり、動植物の生命が共鳴するかのような作品群は、私達の深奥に眠る原初的な感覚をくすぐり、まさに距離感ゼロの世界が生み出されています。展覧会では、どのような展示空間が立ち現われるのか、今からわくわくしています！（A・A）

「開館20周年記念 MOTコレクション特別企画-コンタクツ」展示風景
東京都現代美術館、東京　撮影：佐藤祐介　©2014Izumi Kato

## 川内倫子展（かわうち りんこ）（会期：2016年1月23日㈯―3月27日㈰）

### 「川内倫子展」プレイベント 高校生ワークショップ 撮影した写真で作品集をつくる

2015.7.22

来年1月に開催予定の「川内倫子展」プレイベントとして、高校生ワークショップ「撮影した写真で作品集をつくる」を開催しました。自分で撮影した写真の作品集をつくることを目標に、部活や趣味で写真を撮っている県内在住の高校生約20名が参加しました。

最初に川内さんが高校生で写真家を志すようになったことなど写真家として活躍するまでのお話しを伺い、その後に高校生が実際に撮影した写真を川内さんに見ていただきました。撮影された写真には人間や空、そして食べ物など様々な題材がありましたが、より深くより具体的に高校生が「自分の表現」をできるよう、川内さんは一人一人にアドバイスをされていました。

最後に、写真が一つの意味だけではなく、色んな意味を持てるような作品集作りをするように心がけること、そして写真を撮ることを楽しんでほしいと締めくくり、高校生たちも大熱中のワークショップは終了。宿題は、いただいたアドバイスをもとに次の講評会までに作品集をつくること。川内さんも成果を楽しみにされていました。（H・T）

（※このワークショップは非公募で行われています）

### 川内倫子×熊本コラボレーション「あなたの熊本、わたしたちの時代」第3期撮影

2015.7.22-24

川内倫子×熊本コラボレーション「あなたの熊本、わたしたちの時代」の撮影（3回目）が行われました。今回は撮影最終回として、1期～3期にかけて集まったエピソードから、市内・県内8か所の撮影を行いました。人で賑わう商店街やお祭り、江津湖など、夏の季節ならではの撮影でした。

熊本入りされてから、川内さんと改めて最新の天気予報と照らし合わせて、それぞれのエピソードの撮影に適する条件下で臨めるようスケジュールを最終決定。撮影前に、応募者から寄せられたエピソードをもう一度読んでから、集中して撮影に挑む川内さんの姿に、撮影自体が行われるのはわずかな瞬間だけれども、その瞬間には、川内さんとエピソード応募者の、今の想いと過去の思い出とその間にある時間がぎゅっと圧縮されていくんだなとしみじみ感じました。

3期に分けて開催しましたが、多くの方にご応募いただいたプロジェクトでした。条件が合わず、良いエピソードでも撮影出来なかったものもありました。ぜひ「川内倫子展」会場内での撮り下ろし初公開を楽しみにお待ちください。（H・T）